



OB 会だより

国臨協 OB 会関東信越支部

平成 29 年 9 月 1 日
 発行責任者：岩村義昭
 編集責任者：三浦隆雄
 国臨協 OB 会事務局
 千葉県市川市東国分 2-1-26
 TEL：047-372-0713

第 37 回 総会・懇親会告示



OB 会総会・懇親会の報告

第 36 回国臨協 OB 会関信支部の総会・懇親会が去る 6 月 3 日（土）アルカディア市ヶ谷において開催された。会員 38 名と国臨協関信支部・本部・技師長会の各役員の出席のなか、盛大で楽しい集いであった。

総数 50 名の集まりは昨年とほぼ同数である。

12 時 30 分より始まった総会は次第に従って進められた。まず、岩村会長の挨拶と平成 28 年度経過報告である。次いで澁谷会計役員より平成 28 年度会計報告および 29 年度予算案が示された。木下会計監査より、良好な会計処理が行われていることが確認された、と報告があり、討議に入る。いずれも原案のとおり出席会員の満場一致で承認された。

総会後半は永井技師長会会長の挨拶、山崎国臨協副会長と峰岸関信支部長の挨拶と続く。また、新会員 5 人の氏名が発表される。本会に出席した鈴木氏、向山氏、松林氏、稲葉氏 4 人の紹介と挨拶が行なわれた。これで本 OB 会総会委員数は 112 名である。なお、平成 29 年度新役員は 28 年度と変更がなかったが承認された。

すぐに杉崎氏の発声で懇親会が始まる。この場で軍司光夫氏（85 歳）中田章氏（80 歳）

の長寿祝いが催された。見た目よりはるかに若く元気な両氏には会場の誰もが驚かされたのである。しばらく会員相互の懇談、懇親が続いたのち、国見氏の名司会により会はいっそう楽しいものになっていった。

恒例の参加者全員の記念撮影と、来年も会員が健康で元気に再会できることを誓って散会した。（記：藤川淳作）

***** <大文化祭> *****

1 昨年より始まった「大文化祭」には、数点が出品された。鈴木良子氏の制作による手芸は、その出来栄の良さと技術の高さが会場の話題となった。また、鑑定額が数十万円？とされる岩村義昭氏の書は芸術性抜群といえよう。藤川淳策氏の展示した長野県産の鹿角はすぐに引き取り手が現れた。





総会返信はがきより 近況報告 受付順・敬称略

中村春木：改訂版の本の原稿をやっと書き終わりました。半年前からカラオケサークルに入り、日曜日に生バンドで練習をして年に3回の発表会や、友人と歌謡ステージを見に行ったり楽しくやっています。

澁谷千春：月に何日かは母の家政婦のため実家で過しますので、軟らかく栄養がありしかもおいしい料理が得意になりました。

そんな食事は手間と時間がかかります。

今野清子：ボランティア、サークル活動、ちょこっと仕事に、又2つドリームチームを立ち上げ、老人ホーム等に踊りや歌で訪問、と老人会の役員が加わり目の廻る様な忙しい日々です。元気です。

片山紀美代：相変わらずの病院通いに明け暮れています。5年経ったので安心していましたが・・・今検査結果待ちです。

松田常次郎：元気です。(年齢相応)

永井英司：幹事ご苦労様です。年と共に活動がにぶくなってきました。気は元気ですが。同日別会合と重なり、残念ですが欠席します。皆様によろしく。

福元幸子：先約があり失礼します。元気に運動、旅行等を楽しんでいます。盛会になりますように。

山本優美子：現在は自宅でのんびり過ごしております。次回には皆様にお会いできる様、楽しみにしています。

国見忠義：役員の皆様ご苦労様です。お世話になります。我が輩は老若、老老介護の毎日で、楽しく過しています。明日は我が身にならないよう、時間を見つけて、スポーツジムで健康維持に励んでいます。

下杉彰男：昨年末より地域のボランティアに参加。高齢者への見守り、ささえあいと結構忙しい毎日です。いずれ私自身が支えられる立場になりますが、何時の日か？

でものんびりした毎日を送っています。懇親会に出れないのが残念です。

佐藤乙一：可もなければ不可もなし。平凡な生活、学校では大人らしくなった学生も多くなったように思う。時の流れは早い。アッという間に 95 歳。国立病院も様変わり、いろいろな性格の病院が出来上がり、政策医療の一助としているらしい。近況報告と云えば寝て起きて、勤務に出て、帰ってきて一杯飲んでフロに入って、グーグーで終わりが近づく。

田上高德：家で5人の孫の子守と、九州に2ヵ月に1回帰って母の介護を行なってます。皆なに会えるのを楽しみにしています。

杉崎 登：元気に野良仕事や、地域の奉仕活動、神社の祭りや育児の仕事を手伝っています。

宮崎澄夫：先日、都井岬（宮崎県）の御崎馬の撮影に行きました。11頭の仔馬が生まれ草原を飛び回っていました。

安藤文次：初めて老人健康診を受けました。物忘れの項目はありませんが・・・

いつも出欠の返信遅れて申し訳ありません。ちなみに健診では血圧、心臓が×でした。

軍司光夫：相変わらず頑張っています。

片山栄二：昨年の12月に古希を迎えてから、急に体の衰えを感じるようになりましたが、3年後の東京オリンピック開催までは、何とか頑張ろうと思っています。今年は参加できなくて申し訳ございません。

堀口日出子：百花繚乱、とても過ごし易い季節を迎えました。OB会だより記事訂正の案内まで頂き恐縮に思っております。

6月3日（土）当日ボランティアを頼まれており、残念ですが欠席させていただきます。OB会の皆々様のますますのご健勝を祈念いたしております。

嶋 博：相変わらず暇を見ては、元気に海、川での釣りを楽しんでいます。



総会返信はがきより 近況報告 受付順・敬称略

中田 章：参加している地域のクラブも高齢化のため、会員不足となり存続が難しくなっています。若い方の入会員があるのはOB会だけです。矍鑠たる九五歳の大先輩に最敬礼。

秦 政行：健康を気にしながら、毎日を楽しく暮らしています。スポーツを通して地元の人達と交流をして、陶芸も交流が出来て楽しく良い作品が出来ます。

栗原恵都子：体調に気を付けながら、1ヵ月1回の銅版画など習いに行っております。

佐藤蓉子：相変わらずに日々過ごしております。当日は仕事で参加できません。皆様によりしくお伝えください。役員の皆様ご苦労様です。

中島 治：自由気ままに暮らしています。モノを創る楽しさを満喫中。

山崎将宏：元気でおります。歩行が鈍くなりましたが・・・でも今春、念願の北海道・納沙布岬を訪れ、北方領土を目にできました。皆様のご盛會を祈念致しております。

藤井春男：連絡有難うございます。都合つかず欠席します。元気です。

三橋文子：昨年春右股関節、秋に左膝の手術をし、やっと杖一本で歩けるようになりました。でもまだ電車に乗れず、エスカレーターの下りにも乗れない状態です。というわけで今年もOB会は欠席させていただきます。皆様に宜しくお伝えください。

松本はつ代：晴耕雨読。まずまず健康でスロースライフを楽しんでいます。認知症予防で少し頭の体操を始めました。すでに挫折感を味わっています。

高野友丈：自分診断のMICに気を付けて働いています。ご家族様等で特養入所希望者等、介護でお困りの方は連絡ください。

全室個室です。胃ろう、腸ろう、経鼻経管栄養、スピーチカニューレ、人工肛門、シーパップ装着、喀痰吸引、ペースメーカー等ほぼ対応可能です。

宮田利雄：現在入院中です。

後藤真澄：変わりなく過ごしています。

相賀静子：先に用事のため失礼します。元気でプールに通っています。ご盛會をお祈りしております。

高橋正雄：さわやか学級がシリーズになって、パワーポイントのスライド作りを、あれこれやっています。

高野 了：お陰様で元気でおります。

和田弘夫：就業中に出来なかった、撮り貯めた写真や動画の整理、土日混雑のため行けなかった、近場の名所等を訪れたりとのんびり過ごしています。

壺屋祥三：相変わらず腰痛に悩まされて、出席できず残念です。皆さんの御健康と会の発展を念じる次第です。

山下幸作：お陰様で元気に暮らしております。皆様のご発展とご健康を祈ります。

木下忠雄：会員の皆様お元気でしょうか？桜前線もG・weekに入り、北海道まで北上し、札幌が満開とか。我が家の庭のチューリップも終了となり、次のダリアの球根の植え付けに追われています。学園の方も新しい1年生の授業が始まり、忙しくなってきました。

古座野行夫：変わりばえの無い毎日、最近足、腰、眼、耳も弱ってきました。365日一万歩歩くのは続けています。細々と生きています。

坂本 修：朝夕、犬の散歩、週二日ソフトボールの練習、週一日の仕事、家庭菜園等、その他は気ままに暮らしています。

渡辺純夫：毎年、毎年楽しみにしています。早く6月が来ないかと。毎日ゴールデンウィーク・日曜日で、曜日がわからなくなりました。お世話になります。毎日カラ元気で、地域活動家目指しています。皆様から元気貰いに行きます。よろしく願いいたします。

面白いことがありそうです。



総会返信はがきより 近況報告 受付順・敬称略

坂牧紀一：相変わらずの野菜作りの毎日ですが、一年ごとに体力・気力の衰えを実感しております。

目崎芳朗：歳相応に元気にしております。冬はスキーに30日以上、夏場は体力に応じて、いろんな活動をしており、ウォーキングは毎日欠かさずにと努力しています。畑もあり忙しい毎日です。都合つかず欠席ですがご参加の皆様に宜しくお伝えください。

大貫経一：家の周囲にチューリップの球根を植えて2年。今年も花盛りとなった。昨年紅花の種を植え、夏に開花するのを楽しみにしている。

杉澤頼昭：変わりなく週3日～4日勤務しています。

藤川淳策：自治会会長・町田市健康推進員、バードウォッチングを楽しんでいます。6月中旬にボルネオ、マレーシア旅行。

上原信夫：工夫・実践・反省をくり返し、好きな剣道を楽しんでいます。

岩下浄明：健康のため毎日 10,000 歩を目指し頑張っています。

福島利光：平々凡々毎日を送っております。現在のところ特に病気もせず、健康で生活しております。総会は毎年欠席で申し訳ありません。

原 和子：申し訳ありませんが、都合がつかず欠席いたします。ボランティアの SP の活動と大学同窓会の活動に元気で忙しい毎日です。

大南トメ：お世話になっております。今回は体調不良のため、欠席させていただきます。

油井愼嘩：仕事はしていますが、やや体調が不良で・・・

河村静枝：早いもので OB 生活を始めて、7 年目になります。新しい事に頑張っていたが、ここ2年、体調悪くすべて中止しておりました。今は回復傾向にありますので皆様にお会いして、元気を頂きたいと思ひます。

奥田 勲：大変ご無沙汰しております。ここ2～3年欠席していますので、今年こそはと思っていたのですが、今回も当日(6/3)は、国臨協東海北陸支部で、講演を依頼されそちらに出向かなくてはならなくなりました。誠に申し訳ございません。皆様のご多幸をお祈りしております。

古家正道：古稀を迎えましたので、これからは終活をしなくてはと思っています。

中野正直：私事で多忙のため、欠席いたします。皆様のご多幸を祈念申しあげます。

大野 清：会員の皆様、ご無沙汰しております。退官して早や10年になり、年月が早く感じる今日この頃です。第二の人生を介護の仕事で頑張っていますが、医療現場での経験がベースになっています。高齢者と日ごろ接していますが、元気で明るい方は、家庭環境がよく、なにか趣味を持っている方が多いようです。

私も趣味と仕事に役立つ、ハーモニカ、マジック、写真などで多忙な毎日を送っています。ボランティア活動も月数回行っており、励みになっています。これからも、利用者を見習って、楽しく充実した人生を送りたいと思っています。

宮野勝秋：早退官し14年目に入りました。最後の島旅か？5月8日～14日に与論島～沖永良部島～徳之島～加計呂麻島～奄美大島～喜界島に行く予定です。

鈴木良子：退職後10数年共に小旅行を楽しんでいた大館光子さんが昨年亡くなられました。OB会で元気で歌っておられた姿を憶い出します。身辺日々寂しくなっています。

大脇佳則：家庭菜園を始めました。

今年はゴーヤとミニト マトです。



総会返信はがきより **近況報告** 受付順・敬称略

飛田卓哉：単身生活継続中です。平日は学生たちと話し合い、休日は畑で野菜に話しかけ、平凡な生活をしております。OB会総会に出席したくも、なかなか時間が取れない状況で失礼しております。ますますの盛会を。

益子満男：なんとか、息災に過ごして居ります。しかし、昨今は外出がめっきり少なくなり、車で医者通いとスーパーに行く程度で、運転免許証の自主返納も考え中です。

上杉健治：特老ホームで将棋のサポーターをやり、至福のひと時を過ごしています。

並木信治：幹事様 いつもお世話になります。相変わらずボランティアをしています。年相応の生活をしています。

熊井健晴：長寿祝い有難うございました。

椎津 稔：58歳で早期退職、民間病院へ5年契約で移籍、結局10年勤め、・・・もう遊ぶぞお！とH28年3月に仕事や団体役員等をすべて辞し、全国を半年間遊び廻っていたら69歳になりました。しかし、社会参加していないと何か変だなあ・・・と思うようになったところ2～3の病院からお話があり、昨秋より東京世田谷区の病院にまた勤めています。貧乏性なのですね。余暇は相変わらず、溪流釣り・陶芸・神輿担ぎ・借地農園・テニス・生ビール・冷酒・縁側で猫と日向ぼっこ・・・日々凡々

石川修子：仕事と孫の子守で、忙しい毎日です。そろそろ体に合わせた生活ペースを送りたいと思っていますところ。

和田佳子：月2回のノルディクウォーキングを今年も続けています。

斉藤信一：歳相応の健康で、今年も変化の無い日々を、精一杯努力し乍ら過ごしています。

小林和博：町会役員と選挙推進委員、防犯推進委員を引き受けています。

三浦隆雄：早いもので平均寿命まであと15年になったというのに、意志薄弱のため不健康な時間を過ごすことが多いです。

小坂 諭：日々体力の衰えを感じつつ、筋トレに励んでいます。

角田高枝：冬は粉雪が舞う沼田から、雪の無い県庁所在地近くに住所移動しました。二世帯住宅に娘夫婦と、3人の孫達とくらしています。新転地では、民生委員の方たちと高齢者に配布する食事作りや、福祉施設への奉仕活動に参加したり、地域の方達に親しくお付き合いいただいています。元気です。

原田武江：いつも大変お世話になり、ありがとうございます。若い者が居ませんので御近所の御婦人達に助けられ、生活を楽しんでいます。毎日食べる事に追われ、塩分の多い市販のものをやめて、おかず作りを工夫して食べています。若い人達の活躍が楽しみです。これからも、どうぞよろしくお願い致します。

小原千秋：最近、無気力な日が続き何もする気がなくボーとする時間が多くなりました。老化現象の始まりでしょうか？何か生きがいを見つけて邁進していこうと思っはいるのですが！高齢者の車の時価が増え、車を手放そうかそれとも？この件でも大分悩んでいます。40数年車と歩んだ人生だったんですもの。頑張るぞ！OB会バンザイ！ファイト！

岩村義昭：中央競馬会に積み立てた分を、これから徐々に引き出そうと、毎週土日研究に没頭しています。



「幕末の医師シーボルト」**—日本人に西洋医学を教えた医師—**

西武学園医学技術専門学校 東京池袋校言語聴覚学科

副校長 木下 忠雄

今日林蔵の資料を集めると、彼の顔写真はほとんどが黒く変色しているのはその為である。宗谷海峡を望む稚内に間宮林蔵の銅像がたっているのは、林蔵の極寒に耐えて成し得た業績を称えるものであると思われます。

1811年4月より松前奉行支配調役下役格に昇進。

その後、林蔵は北海道測量という大事業を行う。伊能忠敬は林蔵に測量の技術を教授し、林蔵の測量精度は一段と向上し、忠敬がスケジュールの都合上全ての蝦夷地を測量出来なかった時、残りの北海道全土を林蔵が測量して伊能忠敬の「大日本沿海輿地全図」の北海道部分を完成させる大きな業績を残した。

この間、1822（文政5）年松前奉行が廃止になるまでの23年間（19歳～43歳）もの長期間北海道を中心に活躍した。

その後は、1828（文政11）年勘定奉行・村垣定行の部下となり、幕府の隠密として全国各地を調査し、石見国（島根県）浜田藩の密貿易事件（竹島事件）など多くの事件で活躍する。

シーボルトが間宮林蔵に接近しようとした理由は、既にご存じの事と思われますが、林蔵の北海道以北の情報と、この地域の海防に関する見識の高さに目を付けたとも言われている。シーボルトは九州～江戸まではかなりの情報を持っていた様であるが、江戸以北の情報が少なく林蔵に接近しようと試みたもの。

シーボルトは伊能忠敬と間宮林蔵によって作られた江戸幕府の大切な「大日本輿地全図」（鎖国当時の地図は国の最高機密情報）を高橋景保より入手し、ヨーロッパに送ろうとした。このことが発覚し、国外永久追放となる。これが「シーボルト事件」である。

この事件が林蔵の密告と言われるが、彼の仕事はそもそも樺太探検自体が、対ロシア・対清国への隠密行動であり、単に隠密としての諜報活動の場が全

国に変わったに過ぎない。

江戸後期、世界の海に乗り出したヨーロッパ諸国によって、地球上の様子はほぼ解明されていました。しかしその中で最後まで未踏の地であったのが樺太。

樺太は大陸とつながった半島なのか島なのか。200年前にこの問題に決着をつけたのが間宮林蔵です。

林蔵は樺太が海峡によって大陸と隔てられた「島」であることを確認した。

一年半に及ぶ大踏査の結果は、1830年（天保元年）にフランスの地理学者ルクルスによって「間宮海峡」として認められ、また、林蔵の樺太図はシーボルトが1851年（嘉永4年）に刊行した「日本陸海図帖」に「Str. Mamia seto 1808（間宮之瀬戸）」と紹介され、世界地図に唯一日本人名が刻まれることになりました。

シーボルトらが1826年7月に江戸参府から出島に帰還し、この旅行で1,000点以上の日本名・漢字名植物標本を蒐集できたが、日本の北方の植物にも興味をもち、間宮林蔵が蝦夷地で採取した押し葉標本を手に入れたく、林蔵宛に丁寧な手紙と布地を送ったが、間宮は外国人との私的な贈答は国禁に触れると考え、開封せずに上司に提出した。

林蔵は生涯独身を通したと言われるが林蔵とアイヌ人女性との間に生まれた娘の子孫が現在でも北海道に在住している。間宮林蔵顕彰会によると郷土史研究家の調査で子孫と確認されているらしい。

7.シーボルト家の家族

シーボルトには27歳で来日し、最初の家族である妻・滝と、シーボルト事件により国外退去による帰国後のドイツ人女性ガーゲルンとの再婚による家族がいる。

日本人妻 楠本 滝に—— 楠本 稲 —— 楠本 高子
ドイツ人妻ガーゲルンに——長男:アレクサンダー。
次男:ハインリッヒ。他に三男・長女・次女の5人の子供が存在する。

○楠本 滝：フィリップ(P)・シーボルトの日本人妻。1807(文化4)年～1869(明治2)年。享年63歳。

肥前長崎の商家に生まれる。1827 年長女「稲」を出産。「シーボルト事件」でシーボルトが国外退去の 2 年後、1830 年に海外貿易商である俵屋時治郎と再結する。

蛇足であるが、楠本滝が遊女か引田屋からの名義借りをした一般女性なのかがよく話題になるが、かりに真の遊女であり、シーボルトが「其扇」を 1823 年 9 月の来日 2 か月後から、1829 年 12 月の国外追放までの 6 年 4 ヶ月間の遊女上げ代銀を、抱え主引田屋 卯太郎へ払うとすれば、到底シーボルトの支払える金額ではないとするのが一般的な考えである。

当時、丸山遊郭の阿蘭陀行きの遊女上げ代銀は、唐人行きのそれとは比較にならない代銀であったと言われている。

シーボルト研究家の中では、楠本滝は一般人で遊女の名義を借りたシーボルトの妻であったため、引田屋には金子をも払わず 6 年余りも同居ができた、とするのが一般的とされている。

○楠本 稲：1827（文政 10）年 5 月 6 日～1903（明治 36）年 8 月 26 日。享年 76 歳。シーボルトと滝の一人娘。日本人女性で初めて本格的西洋医学を学んだ産科・外科医として知られる。”オランダおイネ”の異名でも呼ばれていた。

稲は「シーボルト事件」により父が国外追放となり、母滝と共にオランダ商館を出て生活をする。事件 2 年後の 1830 年から母の再婚先である、築町の俵屋時次郎宅で可愛がられて 14 歳まで過ごした。稲は父が残して行った洋書を読み出し、自分も医師に成りたいと母に告げる。

1840 年正月母滝は二宮敬作に「…敬作先生の許で学ばせてほしい…」と手紙を書き、敬作は大阪の高 良斎と連絡を取り、愛媛県宇和島の二宮医院に引き取り、医学の基礎と外科学を指導する。1845 年二宮敬作が宇和島藩医の仕事が多忙となり、鳴滝塾で同門であり、備中岡山で産科塾を開いていた腕の良い石井宗謙の許で産科学を学ぶことを薦める。

石井宗謙の許で 7 年間の臨床経験を積むことになる。しかし、6 年目に事件はおきるのである。1851 年宗謙は恩師の娘稲に対して恥ずべき行為に及んだ。妻も妾もいる熟年者は、25 歳の稲の豊満な肉

体に理性を失った。（娘高子の手記あり）

稲はこの宗謙のレイプにより妊娠してしまいます。翌年(1852)石井塾を去り、長崎へ帰り母のもとで、産婆を使わず自分で臍の緒を切り長女高子を出産する。1852(嘉永 5)年 2 月 26 日の早晩だった。

その後の石井宗謙は師匠の娘に手を付けたとして、他のシーボルト門下生から非難され破門同然の状態となる。稲は彼のことを激しく憎んだ。

1871(明治 4)年異母弟に当たるシーボルト兄弟の支援で東京は築地に開業したのち、福沢諭吉らの口添えにより宮内省御用掛となり、金 100 円を下賜され明治天皇の女官（宮人）葉室光子の出産に立ち会うなど、その医学技術は高く評価された。

1875(明治 8)年に医術開業試験制度が始まり、女性であった稲には受験資格が無かった為、東京の医院を閉鎖し長崎に帰郷する。

1884(明治 17)年医術開業試験の門戸が女性にも開かれるが、既に 57 歳になっていたため合格の望みは薄いと判断、以後は産婆として開業する。62 歳の時、娘高子一家と同居のため再び上京医者を完全に廃業した。以後は弟ハインリッヒの世話となり余生を送った。

1903(明治 36)年食中毒の為、東京の麻布で死去。生涯独身であった。享年 77 歳。

○楠本高子：1852（嘉永 5）年 2 月 7 日～1938(昭和 13)年 7 月 18 日は 楠本稲の一人娘。P・シーボルトの孫娘。1864 年、13 歳の時まで長崎の祖母・お滝の元で育つ。

幼少時は琴や三味線、舞など芸事に熱心であり、医者を経ぐことを期待していた稲を嘆かせていた。1865 年、母稲の恩師・二宮啓作の縁により宇和島藩の奥女中として奉公を始める。その翌年の 1866(慶応 2)年、16 歳で三瀬周三(28 歳)と結婚。三瀬周三は二宮啓作(姉・倉子)の 甥に当たった。

周三は通訳、大阪医学校の小助教、刑務所医務局にて獄制の改善、東京-横浜間の鉄道敷設の指導、1876(明治 9)年には大阪病院一等医に任命され我国医学界の未来に大望を抱いていた矢先、1877 年 10 月 19 日他界する。(死因はコレラ)39 歳。生前に翻訳した数々の名著はその後の日本医学会の発展に大きく貢献した。また、外交の上でも、開国に揺れ

る時代の転換期に、通訳の第一人者として交渉の現場で活躍し、日本の歴史にとって重要な役割を果たした人物である。

高子 27 歳。結婚生活 12 年、子宝には恵まれませんでした。

高子はこの時一代決心をする。シーボルトの孫として女医稲の子として、また、医学者三瀬周三の妻として自分はやっぱり産科の医師に成るべきだと決心をする。

母稲も高子の心根をけなげなことと思い、いろいろと気を配り石井宗謙の長男(高子の異母兄)の産科医師である石井謙道をたより医学の道に専念する。

しかし、高子の学問への精進も東京での同門医師片桐重明を知ることになり、脆くも崩れていったのである。片桐の子を妊娠したのです。母稲は片桐を婿にしようとした。しかし、師である石井謙道はそれを許しませんでした。

親子二代にわたり、同じような人生の巡り合わせとなる。これもシーボルトから受け継いだ西洋人の遺伝子と日本人離れをした美貌が災いして、心無い人間たちの好奇と欲望の的にされてしまった、いわば血の呪縛の被害者であったのかもしれないと言ったら言い過ぎであろうか?

生まれてきた子に高子は、三瀬周三の名を貰い、「周三」と命名し、その子は母・稲の養子となり彼が楠本家を継ぐことになる。

その頃、山脇泰輔という東京医学校に学び、長崎医学校にも遊学した若い医者で、佐賀県杵島群の公立柄崎(現・武雄市)病院院長が、以前から高子に思いを寄せていました。

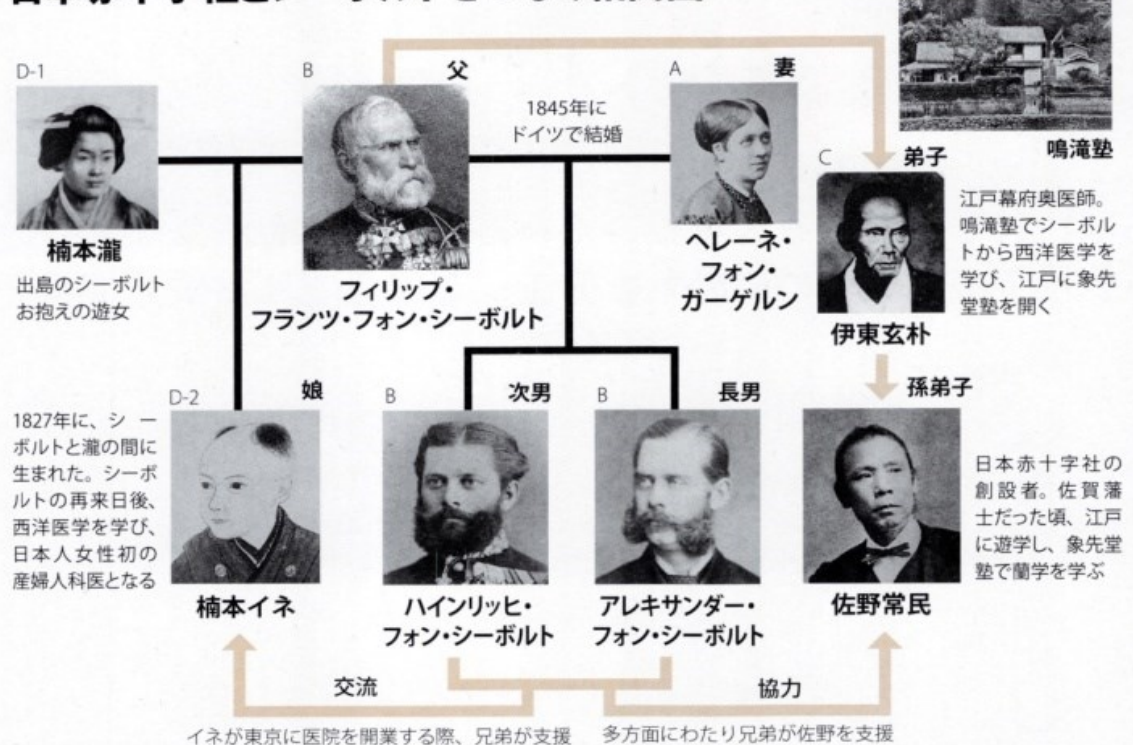
高子は山脇と結婚する。山脇泰三との間に長男一(はじめ)、長女たき、二女たねの一男二女に恵まれた。

しかし、よくよく男運の悪い方で、結婚 7 年目に泰輔と死別する。1887(明治 19)年 9 月。高子 35 歳の時であった。

高子は 3 人の子供をかかえ途方に暮れることになるが、叔父のハイリッヒ・シーボルト(P・シーボルトの次男)の世話を受け、東京で母・稲と共に暮らした。

それ以後は幼少時から習い覚えた芸事を、さらに磨きをかけ芸事の教授として身を立ててゆくことになる。
(次号に続く)

日本赤十字社とシーボルトをつなぐ関連図



第 45 回 関信支部学会開催のお知らせ

上記について OB 会会員の皆様へ下記の通り開催案内がありました。

日時：平成 29 年 9 月 2 日（土）
9：30～16：30

会場：国立国際医療研究センター
国際医療協力局 5F 大会議室

学会テーマ：
～臨床検査の多様性を考える～

学会長 国臨協関信支部長 峰岸正明

平成 29 年度役員氏名

会 長	岩村 義昭	（留任）
副会長	藤川 淳策	（留任）
事務局長	三浦 隆雄	（留任）
会計	渋谷 千春	（留任）
会計補佐	今野 清子	（留任）
役員推薦委員長	大貫 経一	（留任）
会計監査	浅里 功	（留任）
会計監査	木下 忠雄	（留任）

相談役	小原 千秋	（留任）
相談役	宮野 勝秋	（留任）

会費納入のお願い

今回、会報とともに振込用紙が同封されている方は、本年度（平成 29 年度）の会費納入をお願いいたします。

平成 29 年度会費：3,000 円

6 月に開催された総会・懇親会参加の皆様は納入済です。3 年間納入がない場合は脱会とみなすこととなりますので、ご理解のほどお願いいたします。

会報原稿の募集

会報は皆様からのご寄稿により成り立っています。近況報告、身近な出来事や情報、自作のイラスト・写真・エッセイなど形式はとくに問いませんので、お気軽にお寄せください。

原稿はできるだけワード、一太郎、エクセルのいずれかで作成し、下記宛メールにて送付してください。

なお、原稿の採否につきましては役員に一任願います。

<原稿送付先>

〒272-0833

千葉県市川市東国分 2-1-26

岩村 義昭

TEL：047-372-0713

Mail：iwanyosh@kxe.biglobe.ne.jp

<編集後記>

最近、某 TV 局で放送された AI（人工知能）の未来予測、提言が面白い。700 万にも及ぶビッグデータのつながりを解析した結果の AI からの警告である。①健康になりたければ病院（病床数）を減らせ！②少子化を食い止めるには、結婚よりも車を買え！③ラブホテルが多いと女性が活躍する！④男の人生のカギは女子中学生の“ぽっちゃり度”！⑤40 代ひとり暮らしが日本を滅ぼす！が取り上げられていた。AI の結果をどう解釈するかは人間が読み解かなければならない。AI の発展により、マニュアル化しやすい職業は今後なくなる可能性が予想されている。臨床検査分野も大きく様変わり・・・“是非に及ばず”。

今年も楽しい総会・懇親会でした。来年も多数のご参集をお願いいたします。皆様のご幸運ご活躍をお祈りいたします。

（記：三浦隆雄）